

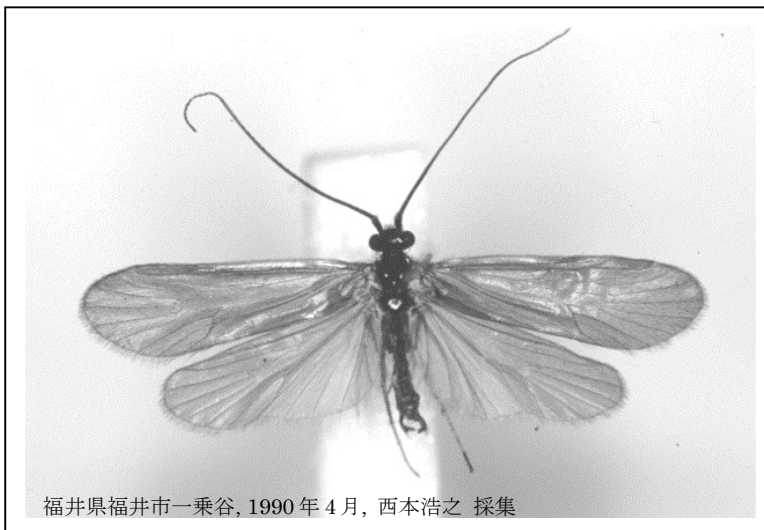
イワコエグリトビケラ *Manophylax futabae* Nishimoto

【選定理由】

非常に不安定な環境に生息するため、周辺の開発による影響を受けやすい。愛知県は分布のほぼ南限にあたり、また、生息地は限られているため、県内産個体群は貴重であると考えられる。

【形態】

成虫雄の前翅長は6.8mm、雌は5.8mm。体色は黒褐色、前翅はつやのある黒色で斑紋はない。終齢幼虫の体長は6.7mmで頭部および胸部のキチン部は赤褐色、前胸・中胸は広く一対のキチン板に覆われ、後胸に3対の小キチン板を持つ。通常、腹部の気管鰓はないが、福井県鯖江市の個体群は第3～4腹節腹面に1対の単一気管鰓を持つ。細かい砂粒から成る巣を持ち、巣の背面に苔の小片を付けることがある。巣の長さは最長9.6mm。



福井県福井市一乗谷, 1990年4月, 西本浩之 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

岡崎市（旧額田町）闇苧溪谷と新城市阿寺の七滝の遊歩道沿い、犬山市継鹿尾で生息が確認されている。

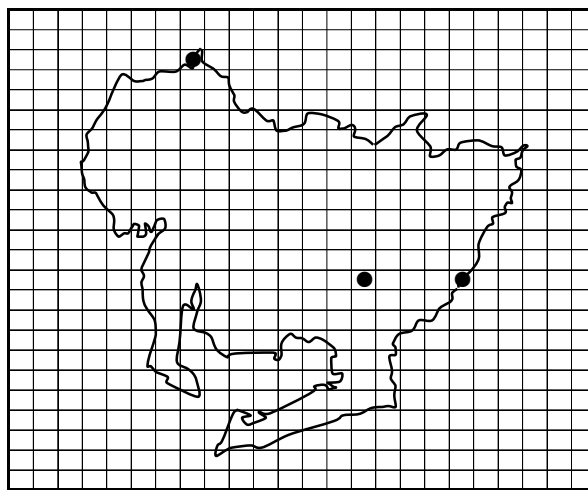
【国内の分布】

本州東北から関西地方にかけて分布する。

【世界の分布】

日本にのみ分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

川から離れた、大きな岩や岩盤の垂直になった面で、やや湿り気があり、多少の苔と地衣類が育つところを好む。乾期が続くと幼虫は巣の開口部に膜を張り、乾燥に耐える。成虫は5月に羽化する。卵から成虫までは3年以上必要と推測される。

【現在の生息状況／減少の要因】

闇苧溪谷の遊歩道脇の岩盤では比較的多く見られる。新城市阿寺の七滝では、遊歩道の拡幅工事の影響もあり、個体数は減少している。犬山市の産地は個体数が少なく、生息範囲は小さい。

【保全上の留意点】

河川沿いの林道の整備にあたっては、生息環境の保全に努める。今以上の分布の拡大は望めないため、現在の状況を最大限維持する必要がある。

【関連文献】

- 兵庫陸水生物編集局, 2011. 兵庫の川の生き物図鑑. 兵庫陸水生物研究会. 357pp.
Nishimoto, H., 1997. Discovery of the genus *Manophylax* (Trichoptera, Apataniidae) from Japan with descriptions of two new species. Japanese Journal of Systematic Entomology, 3 (1): 1-14.
Nishimoto H., 2002. Description of a new species of *Manophylax* (Trichoptera: Apataniidae) from Japan, with a key and distributional notes for Japanese *Manophylax* adults and larvae. Proceedings of 10th International Symposium on Trichoptera, Mey, W. (ed.), Nova Suppl. Ent. Keltern, 15: 211-222.

(西本浩之)